



第54期中間事業報告書

平成18年4月1日～平成18年9月30日

 **南海プライウッド** 株式会社



美しさに富み、
心やすらぐ
快適な住環境をつくる
「木」の再現を
求めつづけます。



企業理念

独自の技術と誠意をもったサービスでお客様の期待に応え、企業を取り巻く多様なステークホルダー（ユーザー、株主、従業員、取引先、地域社会などの利害関係者）との良好な関係を構築し、企業と社会の継続的発展を目指します。

経営方針

お客様が安心できる「ものづくり」をモットーに時代と共に変化する環境に素早く対応できる経営を維持して、安定成長を目指します。

経営戦略

堅実なる財務体質を基盤に海外生産・国内生産・物流・営業・商品開発が一体となったクオリティの高い経営を実行していきます。

ごあいさつ

代表取締役社長

丸山 徹



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに第54期中間事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期のわが国経済は、好調な企業業績を背景に設備投資が順調に増加し個人消費も底堅く推移いたしました。こうした経済・物価情勢が着実に改善していることから日本銀行は7月にゼロ金利政策の解除に踏み切り、国内経済は安定成長を目指して歩み始めました。

住宅業界におきましては、金利先高感から新設住宅着工戸数は堅調に推移いたしました。インドネシア政府の原木違法伐採規制の強化により合板を始めとした輸入原材料価格の高騰が続き、製品価格への転嫁を図らざるを得ない厳しい状況となりました。

このような状況下、当社は、東南アジアにおける原材料の安定購入と購入価格の低減に努めるとともに、製品の品質安定と原材料の見直しによるコストダウンに取り組みました。

一方、販売面におきましては、オリジナル製品の和室創造ボックス「キャブロック」、可動間仕切り収納「ウォールゼットムーブⅡ」、アルミ製オープン階段「ルミスト」などの新製品拡販に努めました。

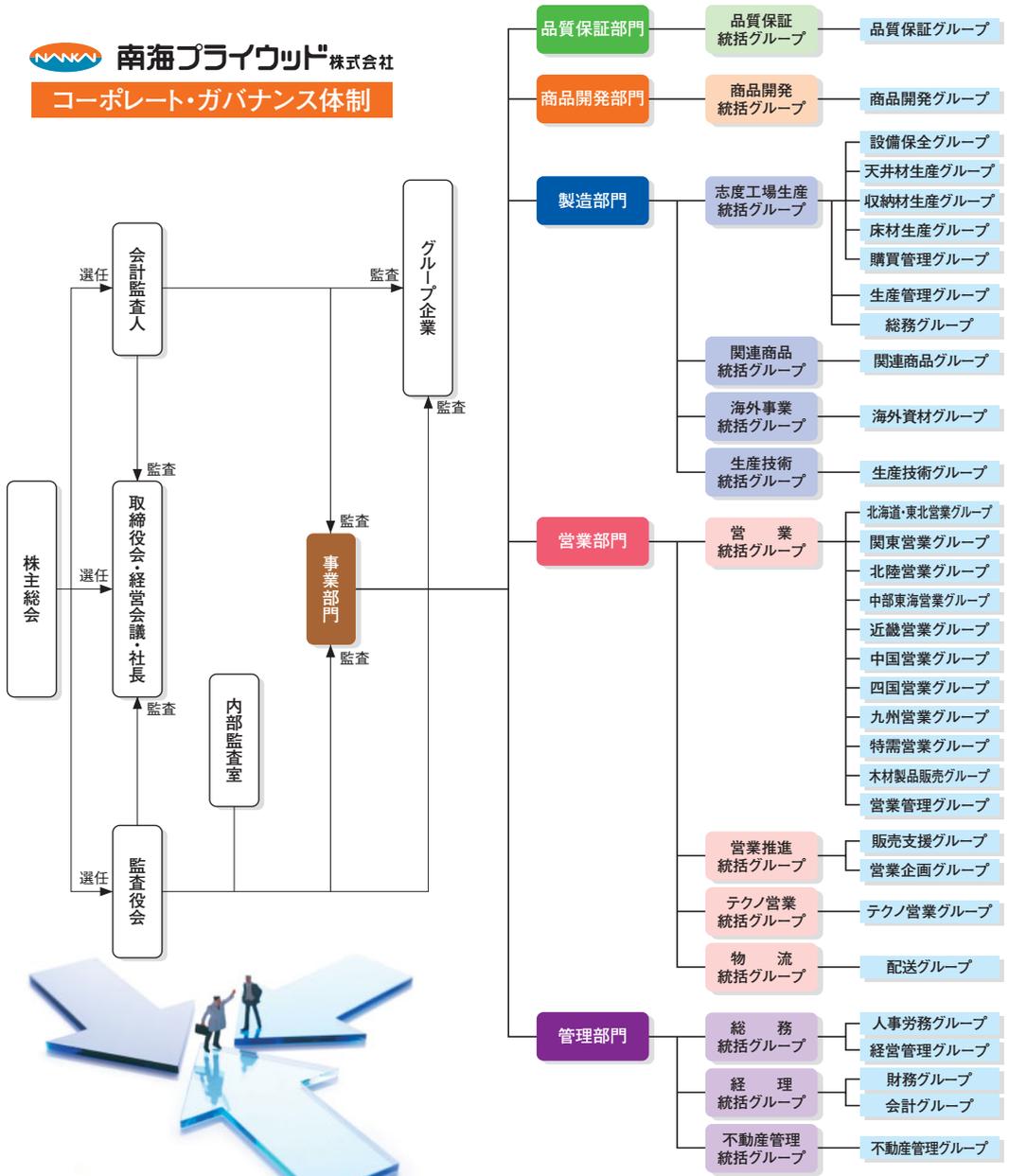
しかし、輸入原材料価格の高騰が予想以上に大きく、やむをえず製品価格への転嫁をお得意先へお願いしておりますが、競合他社との競争激化の中で製品の値上げのため厳しい状況で推移いたしました。

景気は、緩やかな拡大傾向が続くと思われませんが、原材料価格の上昇による企業収益の圧迫から経営環境は予断を許さない状況が続いていくと思われれます。

当社グループといたしましては、経営環境の変化に迅速に対応するとともに、企業の社会的責任を全うし、適正で効率的な経営を進めていくため、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月



当中間期の概況

当中間期のわが国経済は、企業業績の改善により設備投資が増加し個人消費も底堅く推移いたしました。また、原油価格の高騰による影響が出始めましたが、景気は緩やかな回復基調を続けました。

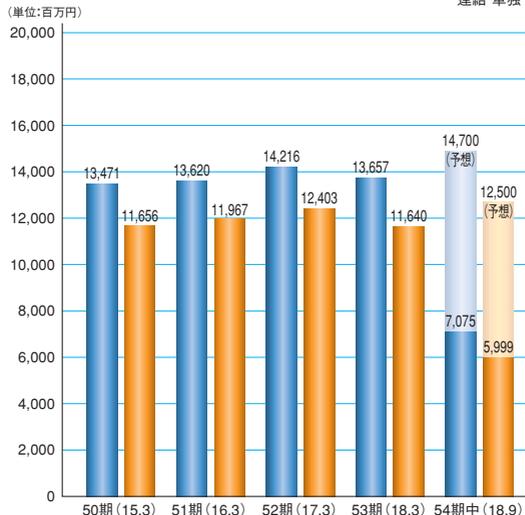
こうしたなかで、新設住宅着工戸数は、金利先高感と景気の回復により、前年同期を上回る3.8%増の664千戸となりました。

このような状況下、当社グループでは、木材関連事業、電線関連事業等ともに企業目標達成に向けた活動を展開いたしました。木材関連事業におきましては、収納材製品を中心に拡販し、アルミ製オープン階段「ルミスト」などの新規販売先開拓を推進いたしました。また、製品の在庫拠点を北海道、東北、関東地区に配備し、納期の短縮と物流体制の向上を図りました。しかし、輸入原材料価格の高騰が収益を圧迫し製品価格への転嫁を余儀なくされ、同業他社との競争激化の中、製品の値上げに踏み切りましたが収益回復までには至りませんでした。

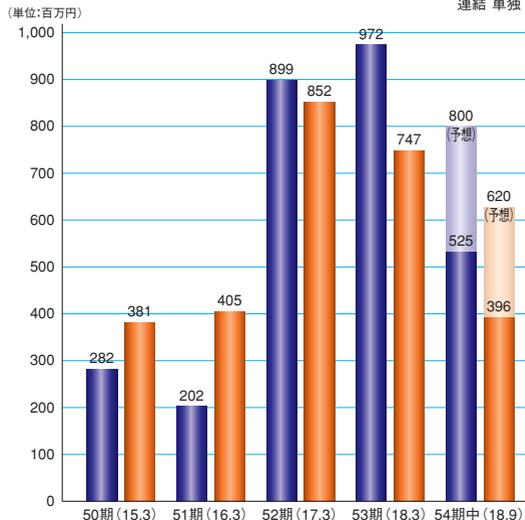
一方、電線関連事業等につきましては、回復傾向にある企業の設備投資に向けて、地域密着型の積極的な営業活動を展開することにより受注の獲得に努めました。

以上の結果、連結業績は、売上高70億75百万円（前年同期比8.1%増）、営業利益3億15百万円（同21.1%減）、経常利益5億25百万円（同2.0%減）、中間純利益3億21百万円（同7.5%減）となりました。

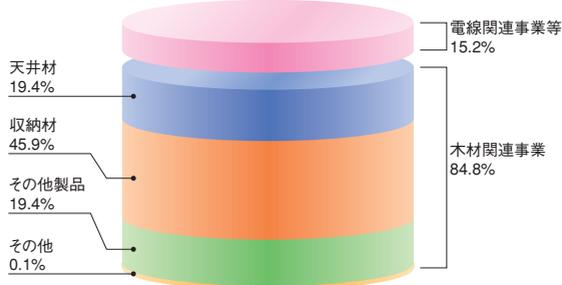
▼売上高の推移



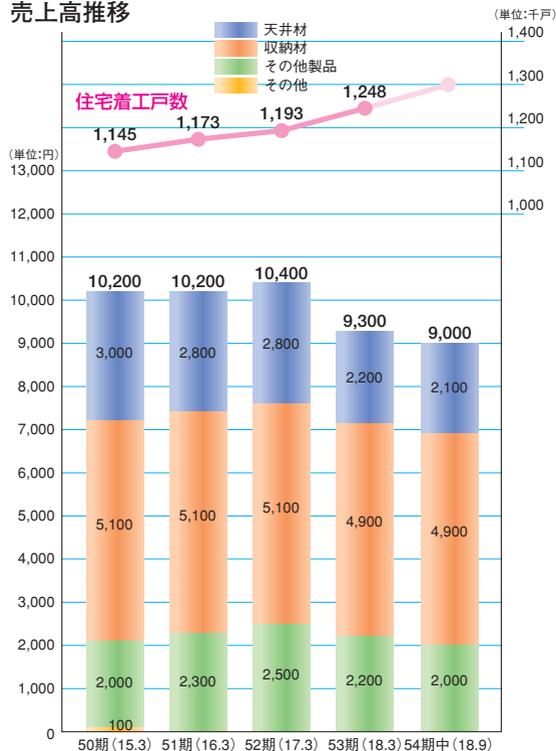
▼経常利益の推移



▼セグメント別の連結売上高構成



▼新設住宅着工一戸当たりの木材関連事業の売上高推移



注) 売上高は、外部顧客に対する売上高であります。

通期の見通し

わが国経済は、企業業績の好調さに支えられ緩やかな景気回復が続いていくと思われま

す。このような状況により、新設住宅着工戸数の動向は、おおむね堅調に推移すると思われま

すが、原材料の高騰が影響し厳しい状況で推移していくと予測しております。当社グループといたしましては、引き続き経営基盤の強化に取り組み、グループの業績拡大を図っていく所存であります。木材関連事業におきましては、原材料の長期にわたる継続的安定確保を目的にインドネシアでの植林事業を推進してまいります。また、植林材使用のための技術力の強化に取り組み、原材料および製品の品質安定に努めてまいります。販売においては、収納材製品を中心に企業収益確保を重点においた販売活動を推進してまいります。

一方、電線関連事業等につきましては、経営基盤の強化に努めますとともに改善されている設備投資に向け、積極的な営業活動を展開することにより、収益の計上が維持できる企業に改善してまいります。

通期の連結業績は、売上高147億円（前年同期比7.6%増）、営業利益5億47百万円（同16.6%減）、経常利益8億円（同17.8%減）、当期純利益5億10百万円（同20.2%減）になるものと予想しております。

連結財務諸表の要旨

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当中間連結会計期末 (平成18年9月30日現在)	前連結会計年度 (平成18年3月31日現在)
■資産の部		
流動資産	9,529	8,976
現金及び預金	1,776	1,265
受取手形及び売掛金	3,367	3,423
たな卸資産	3,746	3,448
デリバティブ債権	315	664
その他	344	192
貸倒引当金	△20	△18
固定資産	9,997	11,353
有形固定資産	8,279	8,475
建物及び構築物	2,399	2,483
機械装置及び運搬具	1,061	1,161
工具器具備品	64	64
土地	4,753	4,765
無形固定資産	137	174
投資その他の資産	1,580	2,703
投資有価証券	852	915
長期貸付金	155	169
差入保証金	—	1,369
その他	579	251
貸倒引当金	△6	△2
資産合計	19,527	20,329

	当中間連結会計期末 (平成18年9月30日現在)	前連結会計年度 (平成18年3月31日現在)
■負債の部		
流動負債	2,320	3,407
支払手形及び買掛金	1,260	1,228
短期借入金	300	700
未払金	264	291
未払法人税等	141	245
未払消費税等	56	30
賞与引当金	168	130
繰延ヘッジ利益	—	664
その他	129	116
固定負債	559	483
退職給付引当金	140	161
役員退職慰労引当金	61	61
その他	357	260
負債合計	2,879	3,890
■少数株主持分		
少数株主持分	—	15
■資本の部		
資本金	—	2,121
資本剰余金	—	1,865
利益剰余金	—	12,202
その他有価証券評価差額金	—	251
為替換算調整勘定	—	45
自己株式	—	△63
資本合計	—	16,422
負債・少数株主持分及び資本合計	—	20,329
■純資産の部		
株主資本	16,299	—
資本金	2,121	—
資本剰余金	1,865	—
利益剰余金	12,378	—
自己株式	△65	—
評価・換算差額等	332	—
その他有価証券評価差額金	214	—
繰延ヘッジ損益	127	—
為替換算調整勘定	△9	—
少数株主持分	15	—
純資産合計	16,647	—
負債・純資産合計	19,527	—

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表の要旨

連結損益計算書

(単位:百万円)

	当中間連結会計期間 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前中間連結会計期間 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	7,075	6,547
売上原価	5,043	4,422
売上総利益	2,032	2,124
販売費及び一般管理費	1,717	1,725
営業利益	315	399
営業外収益	223	152
営業外費用	13	15
経常利益	525	535
特別利益	13	—
特別損失	59	9
税金等調整前中間純利益	479	527
法人税、住民税及び事業税	134	193
法人税等調整額	21	△20
少数株主利益	2	6
中間純利益	321	348

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当中間連結会計期間 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前中間連結会計期間 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,091	544
投資活動によるキャッシュ・フロー	△68	△173
財務活動によるキャッシュ・フロー	△521	△397
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	17
現金及び現金同等物の増減(△)額	513	△8
現金及び現金同等物の期首残高	1,258	1,207
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,771	1,199

貸借対照表

(単位:百万円)

	当中間会計期末 (平成18年9月30日現在)	前事業年度 (平成18年3月31日現在)
■資産の部		
流動資産	7,467	7,481
固定資産	11,069	12,071
資産合計	18,537	19,552
■負債の部		
流動負債	1,489	2,736
固定負債	489	409
負債合計	1,978	3,145
■資本の部		
資本金	—	2,121
資本剰余金	—	1,865
利益剰余金	—	12,245
その他有価証券評価差額金	—	236
自己株式	—	△63
資本合計	—	16,406
負債・資本合計	—	19,552
■純資産の部		
株主資本	16,227	—
資本金	2,121	—
資本剰余金	1,865	—
利益剰余金	12,306	—
自己株式	△65	—
評価・換算差額等	331	—
その他有価証券評価差額金	203	—
繰延ヘッジ損益	127	—
純資産合計	16,558	—
負債・純資産合計	18,537	—

損益計算書

(単位:百万円)

	当中間会計期間 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前中間会計期間 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	5,999	5,657
売上原価	4,386	4,085
売上総利益	1,612	1,572
販売費及び一般管理費	1,419	1,334
営業利益	193	237
営業外収益	215	137
営業外費用	12	13
経常利益	396	360
特別利益	12	9
特別損失	58	6
税引前中間純利益	350	364
法人税、住民税及び事業税	107	174
法人税等調整額	36	△16
中間純利益	206	206
前期繰越利益	—	44
中間未処分利益	—	250

NEWS RELEASE

より優しく、より機能的に。 時代のニーズに応え、さらに進化し続けます。

市場の変化をいち早く察知し行動を起こす。

製品に求められる新しいニーズにスピーディに対応すること。

常に情報をキャッチし、新しい価値を創造し提案すること。

私たちの社会的責務だと考えます。

階段製品

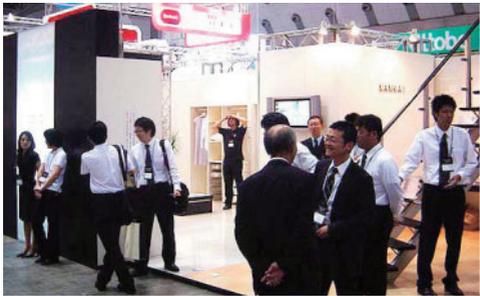


アルミ製オープン階段 [ルミスト] lumist

お客様により安心・快適にご利用頂くために、部材コーナーに丸みをつけ安全性の向上を図りました。桁部分は従来の強度を保ちながら、今までよりも更に厚さを3cm減らしシャープさを追求いたしました。また手摺部分は新たにワイヤータイプ／バータイプ／ポイントタイプを加え、時代のデザインニーズにも対応いたしております。



【2006ジャパン建材フェアに出展】



年間数十回開催している展示会。絶えずフェイス・トゥ・フェイスでの提案とコミュニケーションを心がけております。国内最大規模のフェアにも毎年出展しており、今回出品の「ルミスト」「ノエル2」共に多くの来場者の方々の高い評価を頂きました。これからも常に時代を見つめ、新しい製品・情報の発信に努めてまいります。



収納製品

システム
クローゼットパーツ

WALLZET
[ノエル2] NOEL2

基材をフラッシュ構造からベタ芯（芯材全面）構造に変更いたしました。このフリーカット構造への変更・幅と奥行サイズの追加に伴う設計の自由性・施工の多様性・顧客満足度の向上による販路拡大などが期待されています。市場のニーズに対し迅速かつ的確な対応をこれからも心がけてまいります。

【その他変更点】●表面シート:汚れに強い特殊硬化コート紙のシェルホワイトに●システム穴:穴が目立たない直径5mmから3mmに●オプション追加:スラックスハンガー・ギャラリーケース・シャツトレイ等を多彩に展開



子会社のご紹介 南海システム作業株式会社



南海システム作業株式会社は、当社物流センターにおいて各種製品のサイズ変更ならびに邸別組み合わせ梱包を行い、お客様のご要望に対応した製品の出荷体制に貢献しております。

商号：南海システム作業株式会社

設立：平成14年4月

代表者：代表取締役 田井雅士
(当社常務取締役管理部門長)

本社：香川県高松市松福町一丁目15番10号

作業場所：香川県さぬき市造田乙井170番地1
(南海プライウッド物流センター内)

資本金：1,000万円

株主構成：南海プライウッド株式会社 100%

事業内容：荷造業・木材加工業・倉庫管理業

従業員数：60名(派遣38名)

(平成18年9月30日現在)



南海プライウッド
物流センター

株式の状況

(平成18年9月30日現在)

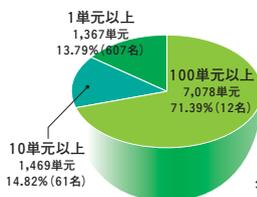
総数

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式総数	10,095,800株
株主数	765名(前期末比55名減)

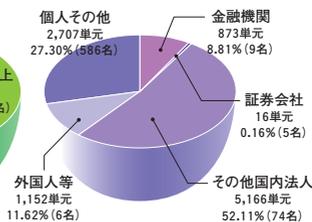
大株主

株主名	持株数	議決権比率
南海興産株式会社	2,943千株	30.24%
財団法人南海育英会	1,554	15.97
エスアイエスセガインターセトルエージ	507	5.21
株式会社百十四銀行	467	4.80
丸山修	344	3.53
ソエテ ジェネラル エアールエイ エスオー デイティイ	295	3.03
株式会社愛媛銀行	243	2.50
南海プライウッド株式会社	182	0
バンク ホフマン エイジー	156	1.60
エスビープライベートバンキング スイス エスエー	137	1.41

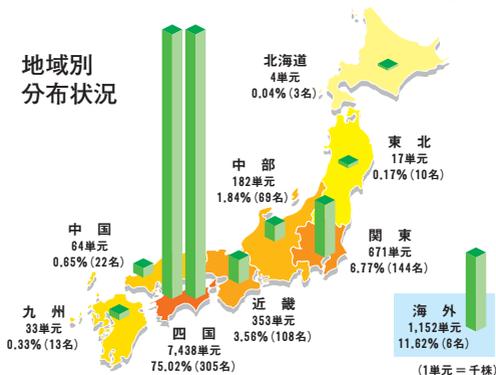
所有単元数別分布状況



所有者別分布状況



地域別分布状況



会社概要

(平成18年9月30日現在)

商号	南海プライウッド株式会社
本社	〒760-0067 香川県高松市松福町一丁目15番10号 電話 087(825)3615(代表) Eメール np@nankaiplywood.co.jp http://www.nankaiplywood.co.jp
設立	昭和30年4月16日
資本金	21億21百万円
従業員数	396名(連結1,419名)
事業内容	建築内装材の製造・販売
事業所	志度工場 〒769-2101 香川県さぬき市志度5388番地 物流センター 〒769-2314 香川県さぬき市造田乙井170番地1 朝日新町倉庫 〒760-0064 香川県高松市朝日新町28番1号

役員

(平成18年9月30日現在)

代表取締役社長	丸山 徹	取締役・執行役員	濱野 勝
代表取締役専務	山口 時弘	取締役・執行役員	藤村 岳志
常務取締役	嶋内 幸秀	取締役・執行役員	正箱 孝史
常務取締役	田井 雅士	取締役・執行役員	丸山 宏
常務取締役	植田 幹夫	常勤監査役	高松 幸雄
取締役相談役	丸山 修	監査役	水野 正
取締役・執行役員	立花 俊憲	監査役	大川 俊徳
取締役・執行役員	小紅 正晴	監査役	岩部 達雄

株主メモ

- 事業年度 / 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 / 6月
- 基準日 / 3月31日(その他必要があるときは、予め公告する一定の日)
- 株主名簿管理人 / 株式会社だいこう証券ビジネス
- 同事務取扱場所 /
〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号
株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部
 - 株式事務各種問合せ フリーコール電話番号 0120-255-100
 - 株式関係手續用紙請求先 フリーコール電話番号 0120-351-465
 - インターネットホームページ http://www.daiko-sb.co.jp
- 同取次所 / 株式会社だいこう証券ビジネス 各支社
- 上場証券取引所 /
株式会社大阪証券取引所 市場第二部(証券コード 7887)
- 公告方法 / 日本経済新聞に掲載いたします。

